

## 第8節

धर्मार्थ उत्तमश्लोकं तन्तुः तन्वन् पितृन् यजेत्  
रक्षाकामः पुण्यजनानोजस्कामो मरुद्गणान् ॥ ८ ॥

*dharmārtha uttama-slokaṁ  
tantuḥ tanvan pitṛṅ yajet  
rakṣā-kāmaḥ puṇya-jaṅān  
ojaḥ-kāmo marud-gaṅān*

*dharmā-arthāḥ*—精神的な高まりのために; *uttama-slokaṁ*—至高主、または至高主に執着している者; *tantuḥ*—子孫のために; *tanvan*—そして彼らを守るために; *pitṛṅ*—ピトゥリローカの住人たち; *yajet*—崇拝しなくてはならない; *rakṣā-kāmaḥ*—保護を求める者; *puṇya-jaṅān*—敬虔な人々; *ojaḥ-kāmaḥ*—力を望む者は崇拝しなくてはならない; *marud-gaṅān*—その半神たち。

知識を得て精神的に高められたい者は、主ヴィシュヌと主の献愛者を崇拝し、子孫相続を守り、王家を繁栄させたいと望む者は、さまざまな半神を崇拝しなくてはならない。

## 要旨解説

宗教の道とは精神的に高められることでもあり、精神的な知識を高めることで、主の非人格の光、局所的様相、最後に主の個人としての姿という理解で究極的に主ヴィシュヌとの永遠な絆を取りもどすことができます。そして、優れた王家を築き、一時的な肉体的関係を高めて幸せになろうとする人も、ピターをはじめとする他の惑星に住んでいる半神たちの力にすがらなくてはなりません。さまざまな半神を崇拝する多種多様な人々も、宇宙内に散在する半神たちの惑星に最終的に到達するのですが、ブラフマジョーティに浮かぶ精神的惑星に到達した人は、最高完成をきわめたこととなります。